海外の地方自治体

～世界花博覧会の田園都市～

大韓民国 高陽市

(財)自治体国際化協会ソウル事務所所長補佐　天願　妙

高麗王朝の首都であった開城と朝鮮王朝以降の首都であるソウルの中間に位置し、古くから歴史の舞台として発展してきた高陽（コヤン）市。現在は都市計画の進んだ田園都市として知られており、1997年から3年おきに開催されている世界花博覧会は、今年で3回目を数え、国内外の注目を集めている。今後、アジア最大規模の国際展示場や観光文化団地などの建設を計画し、ますますの発展が期待されている。

概況

ソウルの西北部に隣接する高陽市は、東側が北漢山や老姑山を有する山岳地形、西側は漢江が流れる平野で形成されている。高陽市一山（イルサン）区の大化洞や注葉洞、馬頭洞一帯には古くから人が居住し、先史時代の石器や土器、青銅器など多くの遺物が出土している。

朝鮮王朝時代（一四一三年）に高峰（ゴボン）と徳陽（トクヤン）という二つのまちが統合され、高峰の〝高〟と徳陽の〝陽〟をとって高陽と呼ばれるようになった。

一九九二年には郡から市に昇格し、現在の高陽市となり、一九九六年に一山区と徳陽区が設置され、二〇〇一年から二区三五洞(注)を管轄している。

高陽市は、もともと歴史の中心地としてその役割を果たしてきた。高陽市の面積は約二六七・二四㎢、人口約八二万九〇〇〇人（二〇〇二年一〇月現在）、都市計画面積の九〇％が緑地帯で、一山区の中心部に位置する鼎鉢山（チョンバルサン）中央公園や徳陽文化体育公園、馬山近隣公園といった美しい公園と、よく整備された道路環境が調和し、韓国では「田園都市」として知られている。

また、外郭循環高速道路や地下鉄、国鉄京義線鉄道などを通じて首都圏のどこにでも連結できる交通網を有している。

高陽市には、韓国はもとよりアジアでいちばん大きい人口湖を持つ一山湖水公園がある。総面積三〇万㎡で、美しく清潔な公園として全国的にも知られており、公園内には世界花博覧会展示館のほか、韓国唯一のトイレ展示館がある。トイレ展示館では野外と地下にある展示室において、韓国及び西洋のトイレの歴史と変遷史が展示されており、写真を通じて世界各地の珍しいトイレも見ることができる。そのほか、韓国の伝統公園、チューリップやバラ庭園、中国式パビリオンなどもつくられており、市民の休憩所等としても広く利用されている。また、天然記念物に指定されている丹頂鶴がよく飛来し、保護樹に指定されたエンジュ（槐花樹）も植えられており、子ども達の環境教育にも役立っている。

このような背景から湖水公園は首都圏内でも名所として知られており、住民たちの憩いの場として親しまれ、毎年、世界花博覧会などの文化行事や祭り等が行われている。

(注)区：人口五〇万人以上の「市」に置かれる行政区画
洞：日本の町に相当し「特別市」や「広域市」の「区」または「市」の下に置かれる行政区画

地場産業

花の都市と呼ばれる高陽市では、技術集約型の花卉産業を通した地域経済の振興に力を入れている。国内最大のサボテン団地があり、改良サボテン市場には、商品として

世界屈指のものを提供している。そのほかバラや盆栽等の花卉の育成は、一九九九年に六〇七万ドル以上の花卉輸出を記録するなど、世界の花卉産業において重要な役割を担っている。

また、木彫物をはじめとする民俗工芸品や各種の装飾品等を生産しており、行政の開発支援等を通じて各種産業の振興に努めている。

高陽市の特産として有名なのは家具で、大規模な高陽・一山家具団地においては数十種類の家具が常設展示・販売され、首都圏でも最高水準の品質及びサービスを提供しており、市においても地域活性化のためこれを支援している。

みどころ

①辛州山城（ヘンジュサンソン）

徳陽の過去の地名、辛州（ヘンジュ）にある辛州山城が最初に建設されたのは百済の時代である。

三国時代及び朝鮮時代の建築様式を随所に垣間見ることができ、城の西南には漢江が流れ、北東には急傾斜の尾根がある軍事的要塞であった。

この山城が広く知られるようになったきっかけは、一五九三年二月（「文禄の役」の当時）の辛州大勝であった。

すなわち、徳陽山の頂上に建てられた辛州山城において、一二時間にも及ぶ戦いの末、わずか三〇〇〇人の朝鮮軍が三万余の日本軍を退けた所として語り継がれている。また、歴史上初めて「灰袋投げ」という戦法が使われた場所としても知られており、女性が長いスカートと短いスカートを重ね着し、そのすその中に攻撃のための石を入れて運ぶなどして戦いに参加したといわれている。この時の勝利を記念して、今でも毎年祭りが開催されている。

②中南米文化院

一九九四年に開館した中南米文化院は、三〇年間中南米で生活した外交官が自費で設立した博物館である。一九九四年に九九二㎡の博物館を設立したのをはじめ、一九九七年には六六一㎡の美術館のほか、野外展示場、彫刻公園、休憩所、記念品店などが建てられ、国内ではなかなか見ることのできない貴重な南米の遺物、収集品などが展示されている。また館内にあるレストランでは、南米の伝統的な食べ物を味わうことができ、作り方などの講習を行って、南米の文化を広く知らしめている。

③高陽サボテン試験場

高陽市一山区に位置する高陽サボテン試験場（京畿道の施設）は、研究、開発だけでなく、各種公報活動等によって国内のサボテン商品の優秀性をPRしている。

海外市場の拡大のため、高陽世界花博覧会や中国広東省花卉博覧会などの出展を通じて、高い輸出実績と安定した生産基盤を構築しており、毎年一万余名が視察に訪れている。

⬆中南米文化院（外観）

⬆高陽サボテン試験場

高陽世界花博覧会の開催

高陽世界花博覧会は、一九九七年に韓国内の地方自治体として初めて開催した世界規模の花博覧会で、以後三年おきに韓国政府と高陽市の後援の下で行われている。

きっかけは、高陽市の花卉産業が韓国の花卉総生産量の一〇％を占めていることから、さらに国内外の優秀な花卉業者の誘致により花卉交流を促進する目的で開催された。一九九七年の一回目の花博覧会では、一三〇万人の観光客を誘致し、海外二八カ国一〇七余りの企業が参加して、二八〇万ドルもの花卉輸出契約をもたらす成果を上げた。

三年後の二〇〇〇年、二回目に開催された高陽世界花博覧会は、その規模と参加国家、参加会社等において、花卉先進国であるオランダやドイツ、イギリスの博覧会に比べ遜色がないといわれており、湖水公園内には錦繡江山（クムスガンサン）を模した盆栽舘や子ども向けのキッドガーデンを設けるなど、一般客にも配慮している。

一方、博覧会開催時には、高陽市内のすべてのタクシー一九二九台が花博覧会指定のステッカーを付け、乗客には花博覧会の紹介をしたり、六〇〇余名の市民ボランティアが参加するなど、地域の住民らも積極的に運営に参加した。

過去二回の高陽世界花博覧会を成功裏に収めた高陽市は、以後韓国でも花のメッカとして知られるようになり、高陽市の地場産業である花卉産業の発展と地域の文化との調和に貢献し、花の観光資源化を通じて地域経済の振興にも寄与している。

二〇〇三年は、四月二四日から五月八日までの一五日間、㈶高陽世界花博覧会組織委員会主催、韓国花卉協会、農協花卉全国協議会及び京畿花卉農業共同組合共催の下、一山湖水公園周辺において三回目の高陽世界花博覧会が開催された。今年のテーマは「花と人間の歓喜」で、室内外においてさまざまな展示やイベント等が行われた。

まず、室内展示館では、世界中の花を展示した世界館や、韓国一〇市・道の花や花卉関連商品を展示した韓国館等があり、屋外は五〇品種一万二〇〇〇本を取りそろえたバラ園（二六〇〇㎡）、チューリップを主体にユリ、アリウム等二〇品種二〇万本の花が咲き乱れるチューリップ園（三七〇〇㎡）、三四種類のハーブと六種類の菊、合わせて三万本から成るハーブ・菊園（六六〇㎡）、自然をテーマに雄大な湖と盆栽をモチーフにした盆栽庭園（六六〇㎡）、韓国に自生する花二万本と草花類でつくった韓民族花の丘（三〇〇㎡）等、色とりどりの花で埋め尽くされていた。

参加国は三五カ国二三〇社で、日本からも高知県立牧野植物園をはじめとする五社が参加した。

また、開催期間中は花の展示・観覧だけにとどまらず、フラワーパフォーマンスやペーパーフラワー作り等のイベント及び花卉関連業者と専門家らの技術交換や商談会も実施され、世界中の関心を集めた。

⬆高知県立牧野植物園（世界花博覧会出展ブース）

⬆世界花博覧会開幕式会場